

### 3. 自然共生社会

「公園や水辺など身近な自然に親しみふれあえる場を創出するとともに、河川・ため池・農地等の自然環境を保全し、生物多様性の保全と生態系の適正な維持を図り、自然共生社会づくりを進めます。」

#### ■施策の展開

##### 3-1 身近な自然を保全・創出する

3-1-1 身近に自然と親しめる空間を創ります。

- ①自然環境に配慮した新たな公園整備
- ②自然環境に配慮したため池の整備・管理
- ③自然環境に配慮した施設管理の推進
- ④緑の保全・地域緑化の推進
- ⑤ビオトープの整備

3-1-2 自然とふれあえる機会を創ります。

- ①自然観察会の開催
- ②かいどり活動の実施支援
- ③環境マップの作成

##### 3-2 生物とその生息環境を守る

3-2-1 在来種の保全と特定外来生物の対策を進めます。

- ①河川やため池における水生生物調査の実施
- ②特定外来生物の調査と適切な対応
- ③かいどり活動の実施支援【再掲】

3-2-2 生物の生息環境である自然を保全します。

- ①水辺空間における生物生息空間の確保
- ②緑の保全・地域緑化の推進【再掲】
- ③広域連携による生態系ネットワークの形成

3-2-3 農地の多面的機能を維持します。

- ①優良農地の確保
- ②耕作放棄地の抑制
- ③環境保全型農業の推進
- ④ため池や水路等の地域資源の維持・修繕
- ⑤地産地消の推進
- ⑥学校給食への地元農産物の使用

◆施策の進捗を見る指標・目標

指標名		現状値 (R1)	中間目標値 (R7)	目標値 (R12)
1人当たりの公園・緑地面積		8.5 m <sup>2</sup> /人	8.7 m <sup>2</sup> /人	9.0 m <sup>2</sup> /人
地域の特性を活かした自然環境が確保されていると思う市民の割合		41.2 %	50 %	60 %
水生生物調査で確認された在来種の種数	河川	24種(4地点)	24種	24種
	ため池	19種	19種	19種
耕作放棄地の面積		33.4 ha	31.8 ha	37.8 ha



(指標・目標の状況)

指標名		R3	R4	R5
1人当たりの公園・緑地面積		8.6 m <sup>2</sup> /人	8.9 m <sup>2</sup> /人	8.9 m <sup>2</sup> /人
地域の特性を活かした自然環境が確保されていると思う市民の割合		—	—	—
水生生物調査で確認された在来種の種数	河川	11種 <small>※悪天候により2河川の結果</small>	—	26種
	ため池	—	16種	—
耕作放棄地の面積		29 ha	29.9ha	41.4ha

## ■主な実施事業等

### 南狭間池公園整備

南狭間池公園において、自然の起伏を活かした造成することにより、水と緑に囲まれた憩いの場の創出を図りました。また、地元と協働しながら草刈りを実施するなど、適切な維持管理を行いました。

### 童話の森で。プロジェクト

官民協働による森の間伐や清掃、“森の文化祭”などを開催し、新美南吉記念館の童話の森や谷地を南吉童話の世界観が感じられる魅力ある空間の維持管理を行いました。

### 緑地等植栽

あいち森と緑づくり事業を活用して民有地緑化を行い、まちなかの緑化を推進しました。 3件

### ビオトープの整備

生活科や理科の授業において、校内のビオトープや観察池、水槽を活用して、身近な生物の観察や飼育を行いました。また、民間でもビオトープが整備され、身近な自然と触れ合う機会が創出されました。

### かいどり活動の実施支援

南狭間池において、「有協の農地・水・緑を守る会」のかいどり活動を支援し、外来魚の駆除などため池の保全を図りました。

### 自然体験・観察会

自然とふれあうことで、自然の大切さや身近な環境に関心を持つため、親子を対象とした自然観察会を実施しました。

実施日	場所	内容
6月4日	亀崎海浜緑地	亀崎海岸の生き物
8月5日	半田運動公園	ナイトハイク
9月16日	神戸川	神戸川の生き物
10月1日	任坊山公園	アサギマダラに会えるかな

全4回：参加者：144名

### 水生生物調査

小中学校理科部会と協働で、市内のため池における水生生物等の生息状況調査を行いました。 稗田川・平地川

### はんだ水辺マップ&すごろく

半田市に生息する生き物などをまとめた「はんだ水辺マップ&すごろく」をリニューアルし、自然観察会等参加者へ配布し、啓発を行いました。

### 特定外来生物の駆除啓発

アメリカザリガニとミシシippアカミミガメが新たに条件付特定外来生物に指定されたため、市ホームページにて啓発するとともに、市民からの問い合わせにも適正な駆除方法を案内しました。

### 農地集積・集約化

有協地区をモデル地区とし、地域の農業者と話し合いを進め、優良農地の確保と担い手の農地集積を図りました。

### 農地パトロール

農業委員会による農地パトロール及び耕作放棄地全体調査において新たにタブレット端末を導入して実施し、より正確かつ詳細に耕作放棄地や無断転用の実態把握を行いました。

### 遊休農地の利用意向調査

遊休農地と判定された農地の耕作者に対して利用意向調査を実施し、利用意向を把握するとともに、農地の貸出希望者に対しては、個別に説明して耕作者につなぎ、利用調整を行うことで耕作放棄地の新規発生を予防・解消しました。

### 環境保全型農業支援対策事業

有機農業や堆肥施用など環境保全に効果の高い営農活動の取組みに対して補助をし、地球温暖化や生物多様性に効果の高い営農活動の普及・拡大を行いました。

### 児童体験農業

体験を通じた食育の推進として、保育園、小学校にてさつまいも作りや稲作体など作付から食べるまでの農業体験学習を農業生産組合等と協力して実施しました。

実施回数：8回

### 6次産業化農業者支援プロジェクト事業

知多半島農業マルシェ「にこもぐ」を4回開催し、地域の農産物を販売する機会を創出しました。

### 学校給食への地元農産物の使用

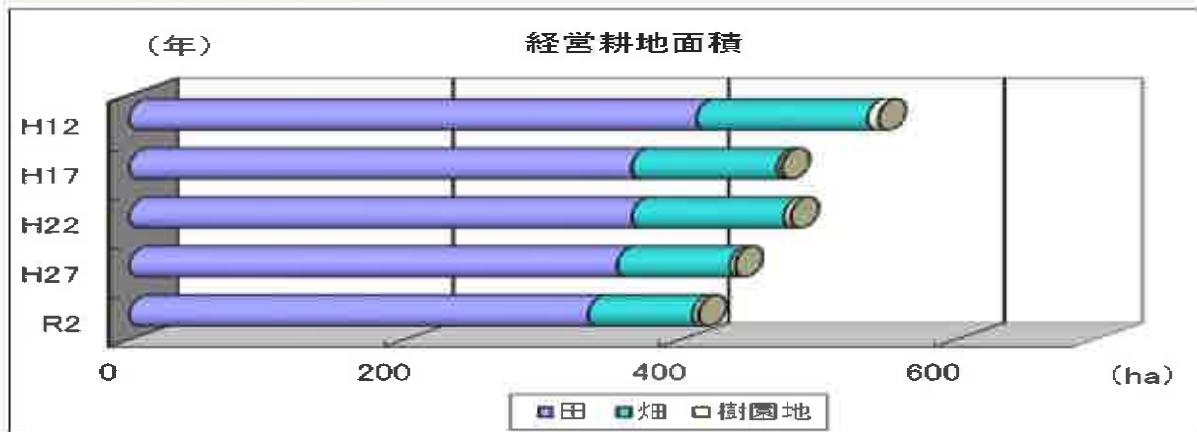
白米、鶏卵、豚肉、キャベツについては、半田市産を積極的に使用し、地産地消の推進を図りました。また、調味料のうち、酢、酒、味噌、ソース、濃い口しょうゆについては、市内企業が製造したものを使用し、地産地消の推進を図りました。

### 学校給食週間

学校給食週間を学期に一同設け、半田市、知多半島、県内の地場産物を活用し、郷土料理等を取り入れた特別メニューを提供し、地元への愛着や食への興味関心を醸成しました。

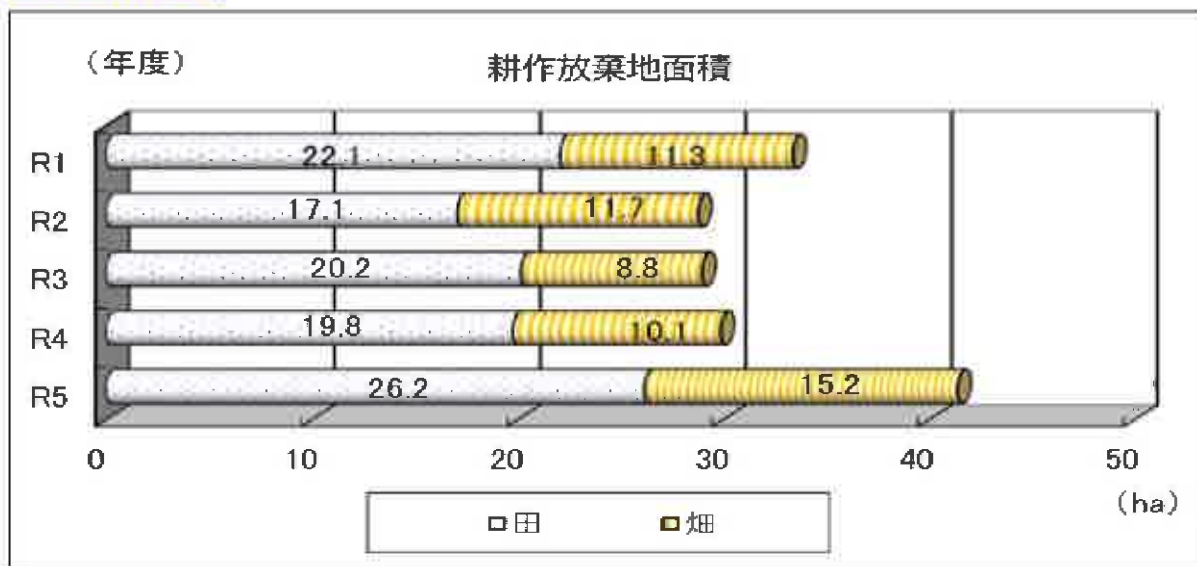
■環境状況等

(1) 経営耕地面積【5年毎】



資料：「農業センサス」

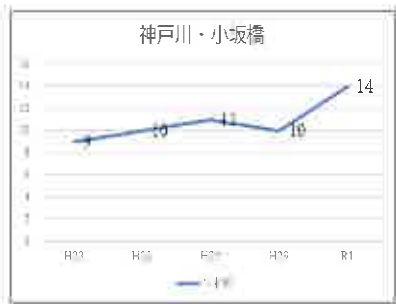
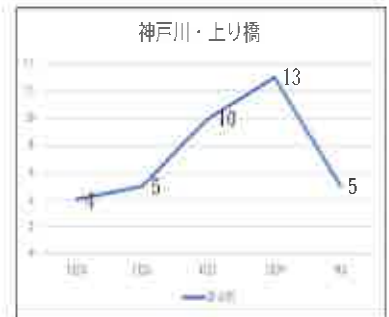
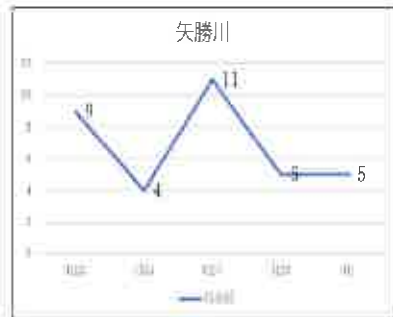
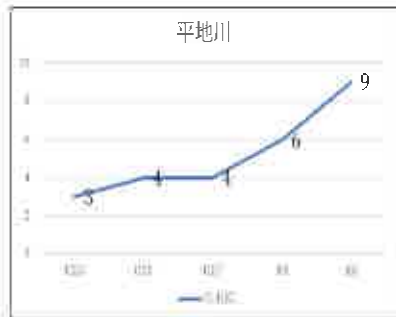
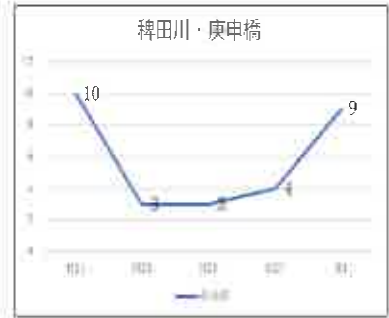
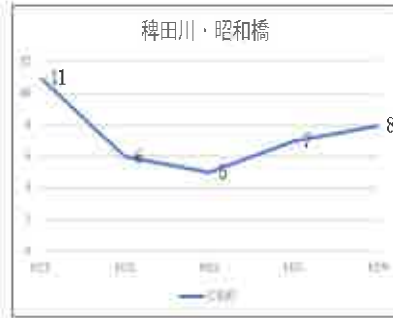
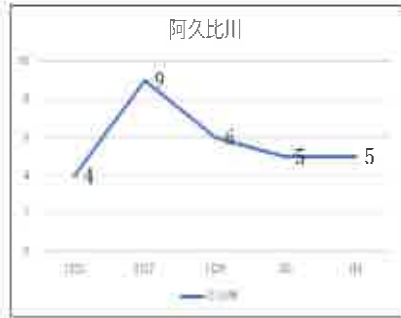
(2) 耕作放棄地



資料：「半田市」(産業課)

(3) 水生生物調査 (在来種)

○河川



○ため池

